

松下幸之助記念財団 研究助成  
研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】

北村匡平

【所属】(助成決定時)

東京大学大学院

【研究題目】

アメリカによる視聴覚教育の実践に関する研究——メディア空間における戦後民主主義のイメージ構築

【研究の目的】(400字程度)

本研究は、占領期、アメリカによる戦後民主主義のメディア政策において、女性がいかに表象されたかを分析する。米国は日本を民主主義陣営に組み込むためのプロパガンダ政策を実施していくが、女性解放を促し封建社会を一掃するために重視されたのが映像メディアであった。GHQ/SCAP の民間情報局によって厳しい検閲が敷かれ、メディアを使って理想の国体を日本人に植えつけようとした。これまで映画と占領に関する研究としては、GHQ 資料をもとにした映画政策と検閲の歴史的な分析、あるいは、宣伝者、興行者、文化人の活動からアメリカ映画の「文化」が日本人にいかに浸透していったかを分析した研究がある。だが、これまでの研究は文化や社会において日本の大衆へ与えた影響を主として映画との関係からしか描いていない。実際、映画が行き届かない地方では学校などで多くの CIE による教育映画が上映されていた。こうした教育映画に関する研究は近年、蓄積されつつあるが、ほとんどが歴史研究や国際関係論からのアプローチであり、「文化の源泉」として日本に浸透していった映像の美学的分析を欠いたものとなっている。CIE 映画を単なる「記録」としてではなく「映画」として見直すことによって、戦後民主主義のイメージ構築に視聴覚メディアが担った役割を分析できると考える。

【研究の内容・方法】(800字程度)

本研究では個々の CIE 映画の内容に特化した分析を行うことによって、アメリカが戦後いかにして理想のイメージを日本人に植えつけることを可能にしたのかを明らかにする。これまでの CIE 映画のリスト化は各研究者が進めてきたが、リスト化されたすべてのフィルムを視聴することはできず、なくなっているフィルムも多くある。日本が保有している場所として、国立映画アーカイブがあげられるが、もっとも CIE 映画を所蔵しているのはアメリカ国立公文書館である。いくつかの映画はデジタルデータとしてコピーが可能となっているが、アーカイブが進んでおらず現地でフィルムを映写機にかけ、直接観なければならないものもあるため、CIE 映画の調査の手順としては、(1)デジタルデータとして複製できるものに関してはアメリカ国立公文書館からすべて複写、(2)できないものに関しては同館で視聴することによって映像の分析を進める。これまで製作や受容のドキュメント分析は着手されているが、CIE 映画を芸術的な観点から分析したものはほとんどない。だが、CIE 映画には、ウォルト・ディズニーによるアニメーションや、ハリウッドの商業映画の監督の作品もある。そのため美学的効果の高いフィルムも多く含まれており、かならずしも退屈な教育映画としてみなされていたわけではない。したがって、どのような演出技法・撮影技法で CIE 映画が作られ、どのように理想的な家族・女性・子供のイメージが表象されているのかを映画研究の立場からテキスト分析することが本研究の内容である。それと同時に、当時、日本の学校で張り出されていた壁新聞の紙面分析もおこなう。こうした視聴覚教育は学校など日常的な場で実践された。CIE 映画と商業映画、壁新聞などにおける女性や子供のイメージの連関をとらえることで、いかに民主主義国家としての理想の国体がアメリカによって呈示されたかを分析する。

【結論・考察】（４００字程度）

CIE 映画に登場する女性は、アメリカ人であれ日本人であれ、戦中に理想とされた良妻賢母のように、忍耐力があり献身的なイメージとは対照的に、積極的に自ら学び、発言する知的な女性として描かれている。また戦中に「集団」として没個性に描かれていた女性たちは、こうした教育映画や商業映画では「個」として描かれ、主体的に思考し、自己主張する女性として演出されている。占領期に民主主義の指導者像としてもっとも人気が高かったスター女優は原節子であり、顔の形態もキャラクターも CIE 映画における民主主義的なイメージをまとう女性とかなり親和性が高かった。戦中の規範への反動としてこれらの理想的イメージは熱狂されることになったのである。とはいえ、1946~49 年における民主主義啓蒙映画や教育映画の受容を分析すると、すばらしいと受け取る観客が圧倒的に多いものの、実際の社会や地域における現実とのギャップに言及する受容もしばしばみられる。占領期における女性の解放のイメージは、1950 年頃から「自由」や「平等」への懐疑（たとえば『自由学校』や『めし』など）として表象され、逆コースへの揺り戻しがすんなり浸透していくことになる。今後の調査としては、封建思想を排除するために重要視された女性表象だけではなく、家族における子供の位置づけや子供がいかに民主主義を内面化して表象されたかを分析する必要がある。